

小学生を対象としたオンデマンド型歯科保健指導実習 に対する臨地実習指導の実践（第2報）

The Report of on Site Training for Dental Health Guidance for Elementary School Students by On-Demand Delivery System. (2nd report)

武山 真奈美 ・ 花 渕 静 ・ 伊 藤 明日香 ・ 三 浦 悦 子
TAKEYAMA Manami, HANABUCHI Shizuka, ITO Asuka, MIURA Etsuko

大 宮 由布子 ・ 西 條 佳 奈 ・ 長 南 真 弓 ・ 大 浦 晴 香
OMIYA Yuko, SAIJO Kana, CHONAN Mayumi, OURA Haruka

伊 藤 恵 美
ITO Emi

キーワード：オンデマンド型歯科保健指導，臨地実習指導，学齢期

Key words：On demand system of oral health guidance, On site training, School age

【要旨】

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、小学校歯科保健指導実習の対面実施が困難となったため、本学では令和2年度に引き続き令和3年度もオンデマンドに切り替え実施した。教員の指導のもとに歯科衛生学科2年生（7期生）が歯科保健指導動画を制作し、それを視聴した児童および担任に対して無記名によるアンケートを実施し分析を行った。アンケート結果から、オンデマンド型歯科保健指導について、「歯の大切さや磨き方がわかった」「聞きやすく説明が丁寧でわかりやすかった」などの有用性が示唆された。しかし、歯の学習に対する児童の理解度については学年により顕著な差があった。今後の課題として、集団におけるオンデマンド型歯科保健指導は一方向からの内容ではなく、児童の興味を引き付け能動的に学べる授業を展開していく必要があり、そのためには小学校の養護教諭やクラス担任との連携をより図る必要があると思われた。

【Abstract】

As face-to-face training for dental hygiene students to learn about dental health guidance at elementary school became infeasible due to the COVID-19 pandemic, the study university provided such training on demand in FY2021, following FY2020. Students in their second year at the Department of Dental Hygiene (7th graduates) created a video for dental health guidance under the supervision of faculty members. Subsequently, to evaluate the guidance provided by students through the video, an anonymous questionnaire survey was conducted, involving elementary school children and class teachers who watched it. Analysis of their responses supported the usefulness of the on-demand dental health guidance, as they tended to be positive, such as “I learned the importance of my teeth and how to brush them” and “It was easy to listen, and all explanations were detailed and clear”. On the other hand, the level of understanding of what was learned markedly varied among elementary school grades. The results indicate the necessity of developing class sessions, where elementary school children can actively learn with interest, rather than one-sided teaching, when providing group dental health guidance on demand. In this respect, collaboration with nurse-teachers and class teachers at these schools should be further promoted

【緒言】

2022年に向けて開始された「健康日本21（第2次）」[1]では、個人の生活習慣の改善、個人を取り巻く社会環境を通じて、生活環境、社会環境の質の向上を図り、健康寿命の延伸・健康格差の縮小の実現を目指している。また、2011年に制定された「歯科口腔保健法（歯科口腔保健の推進に関する法律）」[2]においても、口腔の健康を保つことが健康で質の高い生活を営む上で重要であると明記されている。歯科衛生士は各ライフステージに適した健康への支援を行うことが重要な業務の1つである。

小学校における教育課程の中の健康教育は、体育保健領域を中心とした学級活動などの特別活動で実施される。歯科衛生士は、その中でも歯科健康教育の場面において、対象者が最も歯科保健行動の変容に繋がるような効果的な方法を選択し、実践できる能力が必要とされる。一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会が出した、歯科衛生士養成のための歯科衛生学コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－[3]によると、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知

識、技術および態度を身につけることを一般目標とし、学齢期における保健活動の実習内容は、小学校の健康診断（歯科健診）、歯科保健教育と示されている。

これらのことから本学歯科衛生学科では、小学生を対象とした集団歯科保健指導実習を平成22年より、名取市立S小学校にて対面で実施してきた。しかしながら昨今の新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、令和2年度においては臨地実習カリキュラムのひとつである小学校での対面による集団歯科保健指導実習の実施は難しい状況となった。そこで本学では、歯科衛生学科の学生が児童向け歯科保健指導教材として動画を制作し、児童が自宅でオンデマンドにて視聴する方法でのオンデマンド型歯科保健指導を実施するに至った。オンデマンド型歯科保健指導では、児童の反応を直接見ることができないことから、動画視聴後に児童および保護者に対して無記名でのアンケートを実施、回収し、著者らはその結果を報告した[4]。このアンケート結果より、動画の内容について児童および保護者ともに“楽しかった”“わかりやすかった”と答えた割合が約80%であったことから、歯科保健指導の内容が児童お

よび保護者に対して興味や関心を引くものであり、理解できる内容であったことが伺えた。この動画を観たことにより、歯を大切にしようと思った児童の割合が95.7%に上っていることから、口腔の健康に対する関心のみならず、歯科保健行動の意識を高めることに繋がったと考察できた。また、アンケート内の自由感想欄からは「自宅で時間があるときに観ることができる」や「繰り返し観ることができて良かった」「兄弟で観ることができた」など、オンデマンドによる歯科保健指導であったからこそそのポジティブな意見が得られ、オンデマンド型歯科保健指導の有用性を示唆する結果が得られた [4]。

これらの結果や新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが見えない状況を踏まえ、令和3年度も引き続きオンデマンド型歯科保健指導を実施した。令和2年度は児童が各家庭で保護者のスマートフォンなどにて動画を視聴する方法で行ったが、令和3年度においては、児童が小学校の各教室でクラス毎に動画を視聴する方法に切り替え、集団に対するオンデマンド型歯科保健指導を実施した。この方法に切り替えた目的としては、前回は各家庭での実施だったため動画を視聴しなかった児童がいたことから、今回は学級活動の授業内でクラス毎に実施することで全員が視聴できるようにするためである。

本研究では、本学歯科衛生学科の学生がオンデマンド型歯科保健指導実習に取り組むにあたり実

施した学生教育の具体的な方法と、回収したアンケート結果を分析し、今回実施したオンデマンド型歯科保健指導実習の在り方について継続的に評価し、その有用性や課題を明らかにすることで今後の歯科衛生士教育に対する一助とすることを目的とし実施した。

【オンデマンド型歯科保健指導実施までの流れ】

オンデマンド型歯科保健指導を行った対象は、名取市立S小学校1年生（73名）、2年生（78名）、3年生（58名）、4年生（61名）、5年生（51名）、6年生（58名）の13クラス、計379名である。小学校の1クラスに対し、本学歯科衛生学科2年生（7期生）65名が、4～6名でひとつのグループとなり、表1のスケジュールに沿って歯科保健指導動画を制作した（表1）。

歯科保健指導の目標としては、『対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる』、『オンデマンド型歯科保健指導動画を制作する能力を身につける』こととし（図1）、近年のコロナ禍などの状況により、対面での集団歯科保健指導の実施が困難な場合であっても、それに代わる指導方法を立案し、実行する能力を身につけることで、地域歯科保健を担う一員としての能力を養うことを最終目的とした。

9月14日に名取市立S小学校を訪問し、小学校養護教諭（実習担当者）と実習内容および実習スケジュールについて打ち合わせを行った。

表1 令和3年度 オンデマンド型歯科保健指導実習スケジュール

日程	スケジュール
令和3年 9月28日	・臨地実習指導（臨床応用）シラバス1, 2回目 授業 オンデマンド型歯科保健指導実習
10月6日	・「歯科保健指導動画計画書」最終提出
10月7日～10月15日	・教材作製、予演
10月11日～10月20日	・動画撮影開始
10月18日～10月29日	・動画編集およびUSBへ動画保存 ・児童向け配布プリント作成および配布教材一式の梱包作業
11月4日	・小学校へ歯科保健指導動画および教材の受け渡し
※児童動画視聴およびアンケート回収期間 11月8日～11月12日	
12月22日	・オンデマンド型歯科保健指導実習のまとめ

臨地実習（オンデマンド型歯科保健指導）要項 ～学齢期～

1. 実習目的

小学校における健康教育を実施するにあたり、歯科保健指導の具体的な方法を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。
- 2) 指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。
- 3) 対象学年の児童に対しわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。
- 4) 歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。

3. 実施期間

令和3年11月8日（月）～11月12日（金）

4. 実施方法

- ・学級活動時間内において、オンデマンドによる歯科保健指導をクラスごとに実施する。
- ・歯科保健指導動画は、概ね30分程度とし、自宅で実施してもらう実験やワークシートについては、動画内にて説明する。
- ・動画データはUSBに保存し、各クラス担任へ配布する。
- ・各クラスの児童と担任にアンケートを実施する。

5. 各学年別歯科保健指導目標および配布物について

学年	歯科保健指導の主題およびねらい	児童配布物（自宅で使用）
1学年	主題：6歳臼歯の大切さを知ろう ねらい：6歳臼歯の役割と大切さを学ぶ	・歯ブラシ ・ワークシート ・保護者宛てリーフレット
2学年	主題：こどもの歯とおとなの歯をむし歯から守ろう ねらい：歯の生えかわり時期の特徴と歯をむし歯から守る方法を学ぶ	・歯ブラシ ・ワークシート
3学年	主題：むし歯にならないおやつを食べ方を知ろう ねらい：むし歯の原因となる甘い食品について学ぶ	・歯ブラシ／デンタルミラー ・ワークシート ※後日学生よりフィードバック
4学年	主題：むし歯を予防しよう ねらい：むし歯の原因と成り立ちについて学ぶ	・歯ブラシ／デンタルミラー ・実験キット（RDテスト） ・ワークシート ※後日学生よりフィードバック
5学年	主題：歯肉炎を予防しよう ねらい：健康な歯肉と歯肉炎、歯周炎について学ぶ	・歯ブラシ／ホルダー付きフロス ・実験キット（ペリオスクリーン） ・保護者宛てリーフレット
6学年	主題：だ液の働きを知ろう ねらい：唾液の働きとよく噛むことの大切さについて学ぶ	・歯ブラシ／ホルダー付きフロス ・実験キット（CAT21、咀嚼判定ガム） ・保護者宛てリーフレット

図1 臨地実習（オンデマンド型歯科保健指導）要項

表1にあるように、9月28日に学生に対して、科目「臨地実習指導（臨床応用）」にて90分2コマで講義を行った。学生は、1年次および2年次前期までに、小児歯科学および歯科保健指導論の集団歯科保健指導に関する項目は既に履修済みであり [5] [6]、復習を兼ねて次の内容について確認を行った。①学齢期における口腔内および食生活の特徴について。②学齢期のセルフケア・プロフェッショナルケア・コミュニティケアの目標について。③学年別歯みがき指導の重点目標について。④歯科保健指導動画計画書の作成および歯科保健指導動画制作時の留意点について。この歯科保健指導動画計画書（図2）は、テレビ局などで用いられる絵コンテおよび構成表（指示書、構成、台本）を参考にしたものであり、作成の目的としては、学生に歯科保健指導の計画を立案させるだけでなく、グループ内の各学生間および担当教員が動画制作全体のイメージを共有し、実際の動画撮影をスムーズに進行させるためであった。全体の指導計画としては、今回は小学校の各教室にてクラス毎の集団に対して実施するため、感染予防の観点からもマスクを外さない状況を徹底し、さらに歯ブラシなどを用いた歯みがき指導に関しては、口腔内に歯ブラシを入れず動画のみで実施することとした。

学生がそれぞれのグループに分かれての活動では、本学歯科衛生学科の専任教員をアドバイザーとして、学年別に1名ずつ配置し、動画制作の計画から予演、実施に至るまでの過程を担当した。これまでの対面による歯科保健指導においては、小学校の授業時間の45分間で実施をしていたが、オンデマンド型歯科保健指導における動画時間の長さは、児童が集中して視聴できることを考慮し、全学年10～20分程度とした。表1の10月7日から10月15日までに実施された予演では、対面以上に表情を意識し、話し方に関しては抑揚をつけること、よりわかりやすい言葉を選びゆっくり話をするなど意識し取り組むよう指導した。

10月11日から実施した動画制作方法について

は、紙媒体やペーパーなどをビデオカメラで撮影する方法や、Microsoft PowerPointで作成した教材に音声録音を行い、ビデオ化するなど、グループごとに工夫をしながら制作した（図3）。

10月18日からは、ビデオ撮影もしくはMicrosoft PowerPointでビデオ化した歯科保健指導動画の編集を教員および学生が担当した。動画編集に使ったソフトはCyberLink PowerDirector17、18もしくは学生自身のスマートフォン内の動画編集アプリケーションである。配布教材については全学年に歯ブラシ、1,2年生は歯みがきカレンダー、3,4年生は歯みがきチェックシート、5,6年生はホルダー付きフロスおよび保護者宛てリーフレットを同封した。さらに、4～6年生には自宅で実施できる唾液を用いた各種実験キットを同封した（図4）。これらを配布した目的としては、先行研究 [4] の中で児童の健康に関する保護者の意識は学年が上がるにつれて低下していく可能性が考えられたことから、児童が学校で学んだことを家庭学習において実施でき、さらには保護者へも歯の健康に関する啓発を行うためである。

各種実験キットの使用方法については、取り扱い動画をYouTubeにてアップロードし、限定公開に設定することにより他者が視聴できないように配慮した。アップロードURLはQRコード化し、担当クラスごとの動画視聴案内プリントに添付し、児童が保護者のスマートフォン等で視聴しながら家庭で実施できる方法とした（図4）。さらに、配布教材一式と歯科保健指導動画視聴後のアンケート（図5）を同封し、各クラス担任が11月8日～11月12日の学級活動の授業内に教室にてオンデマンド型歯科保健指導を実施した。歯科保健指導動画視聴後アンケートは個人が特定できないよう無記名とし、配布および回収は各クラス担任が行った。さらに、各クラス担任に対してもアンケートを実施し、回収した（図6）。

12月22日に学生に対して、科目「臨地実習指導（臨床応用）」にて90分2コマでオンデマンド型歯科保健指導実習のまとめを行った。まず始めに児童および担任を対象としたアンケートの集計



図3 実際の動画の一部



図4 動画視聴案内プリントおよび配布教材一式

し か ほけんしどう
歯科保健指導アンケート（児童用）

きょう は かん がくしゅう
『今日の歯に関する学習をふりかえろう』



がくねん くみ
学年 組

しつもん ないよう
※質問の内容にあてはまるものに○をつけてくださいね。

きょう は がくしゅう たの
1：今日の歯の学習は楽しかったですか。

とても たの 楽しかった 少し むずかしかった とても むずかしかった

じぶん
2：自分にとってためになるお話だと思いましたか。

とても おも すごく思った まあま おも 思った あまり おも 思わなかった

じぶん はみが おも
3：自分からすすんで歯磨きをしようと思いましたか。

とても おも すごく思った まあま おも 思った あまり おも 思わなかった

きょう がくしゅう は たいせつ おも
4：今日の学習で歯を大切にしようと思いましたか。

とても おも すごく思った まあま おも 思った あまり おも 思わなかった

かんそう じゆう
5：感想を自由にかいてください。

仙台青葉学院短期大学

歯科衛生学科

図5 オンデマンド型歯科保健指導に関するアンケート（児童用）

結果を提示し、その結果を踏まえて今回のオンデマンド型歯科保健指導の内容について学生間で共有できるよう、各学年代表クラスの制作動画を視聴させた。各自参考にしたい点および改善を要する点を記録し、数名に発表させ、さらに記録用紙はレポートとして提出させた。

【アンケート結果】

アンケートの回収率は、全校児童では97.4%であった。内訳としては、1年生98.6%、2年生97.4%、3年生100%、4年生96.7%、5年生94.1%、6年生96.6%であった。また、各クラス担任を対象としたアンケートの回収率は100%であった。

児童を対象にしたアンケートでは「今日の歯の学習は楽しかったですか」という質問には、“とても楽しかった”と回答した児童が全学年で76.4%であった。“少しむずかしかった”“とてもむずかしかった”と回答した児童は23.6%であり、各学年では、1～5年生では約10～20%、6年生は46.4%であった。(図7)。また、「自分にとってためになるお話だと思いましたか」という質問には、“すごく思った”“まあまあ思った”と回答した児童が全学年で97.5%であった(図8)。「自分からすすんで歯磨きをしようと思いましたか」という質問には、“すごく思った”“まあまあ思った”と回答した児童が全学年で99.2%であった(図

9)。「今日の学習で歯を大切にしようと思いましたか」という質問には、“すごく思った”“まあまあ思った”と回答した児童が全学年で99.2%であった(図10)。

一方、各担任を対象にしたアンケートでは、児童の歯科保健指導受講状況について「児童たちは、内容に興味を示していましたか」という質問には、“全員が興味を示していた”と回答した担任が全学年で100%であった(図11)。また、「児童たちは、最後まで集中し受講することができましたか」という質問には、“全員が集中して受講できた”と回答した担任が全学年で100%であった(図12)。「児童たちは、歯についての健康意識が高まったと思いますか」という質問には、“そう思う”と回答した担任が全学年で100%であった(図13)。さらに、歯科保健指導内容についてのアンケートでは「学生たちの話し方、間の取り方についてはよかったですか」という質問には、“大変よかったです”と回答した担任が全学年で92%であり、“概ねよかったです”と回答した担任が全学年で8%であった(図14)。「指導用教材は、児童たちにとってわかりやすかったですか」という質問には、“大変よかったです”と回答した担任が全学年で85%であり、“概ねよかったです”と回答した担任が全学年で15%であった(図15)。

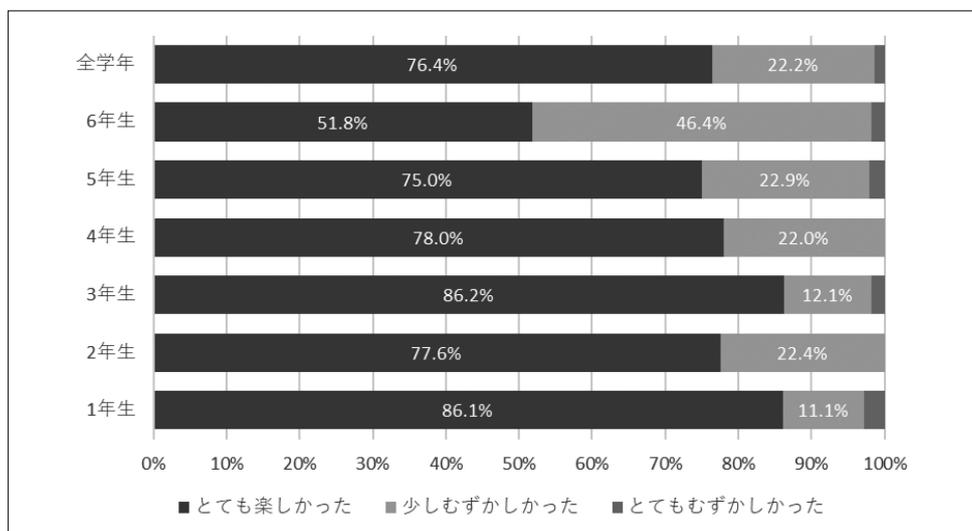


図7 児童の方への質問「今日の歯の学習は楽しかったですか」

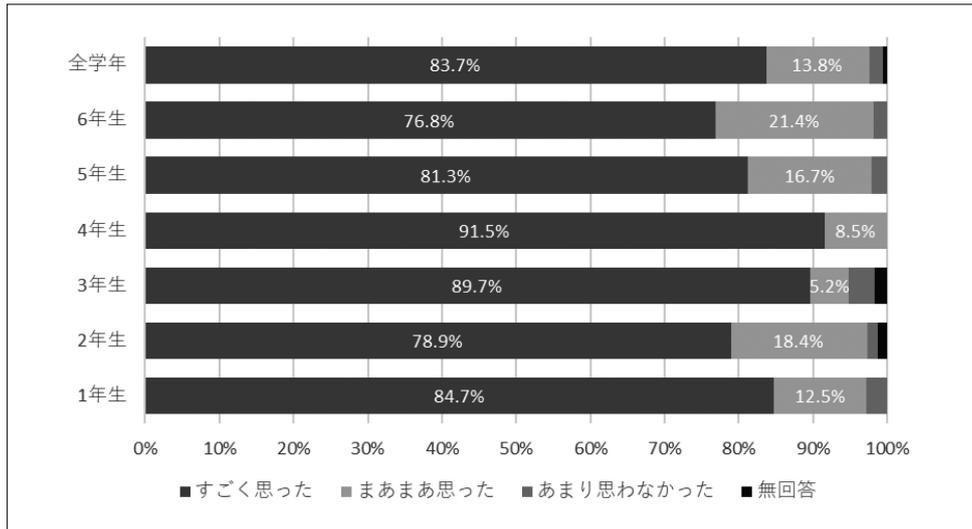


図8 児童の方への質問「自分にとってためになるお話だと思いましたか」

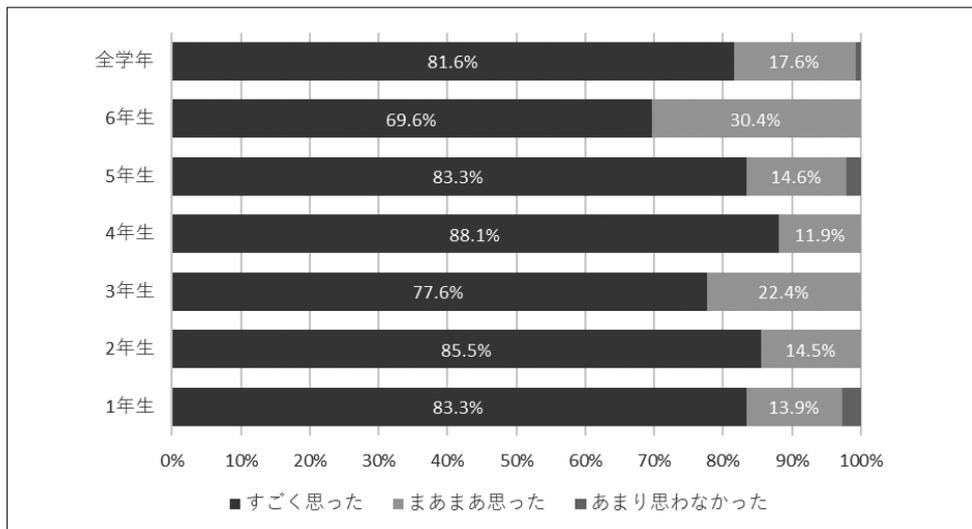


図9 児童の方への質問「自分からすすんで歯磨きをしようと思いましたか」

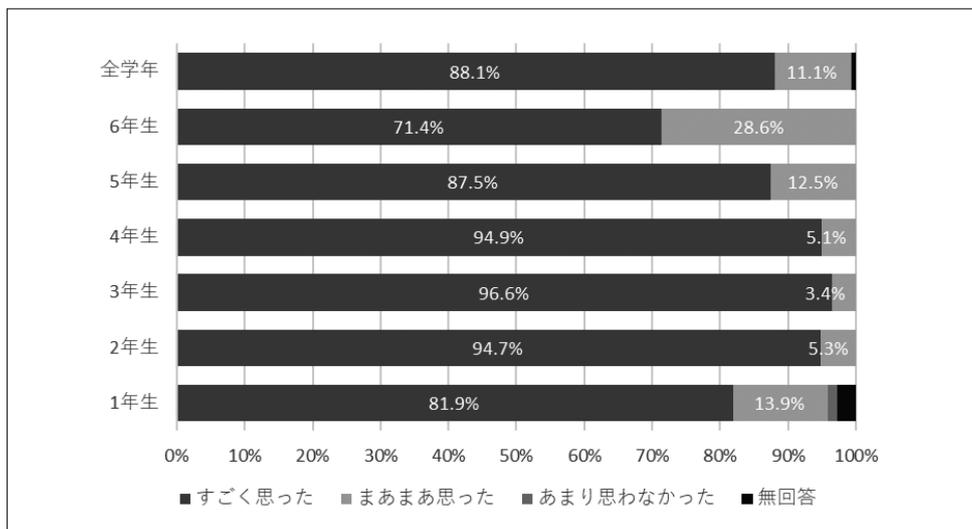


図10 児童の方への質問「今日の学習で歯を大切にしようと思いましたか」

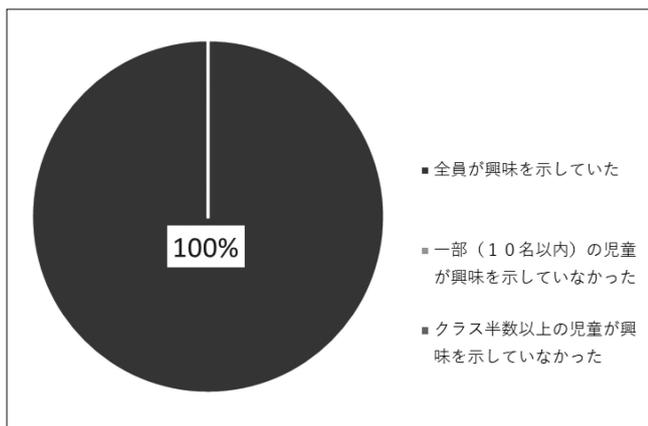


図 11 担任の方への質問「児童たちは、内容に興味を示していましたか」

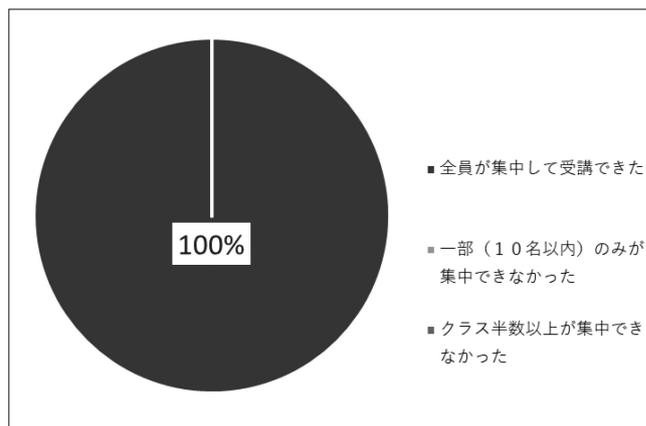


図 12 担任の方への質問「児童たちは、最後まで集中し受講することができましたか」

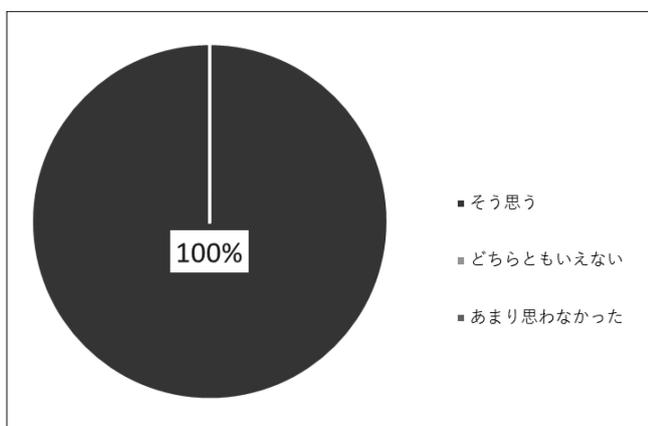


図 13 担任の方への質問「児童たちは、歯についての健康意識が高まったと思いましたか」

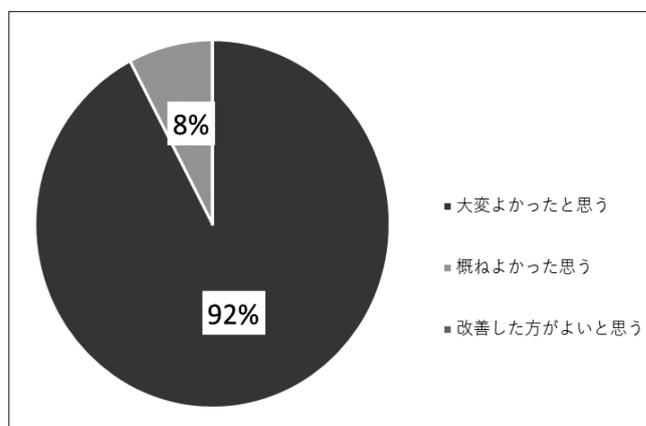


図 14 担任の方への質問「学生たちの話し方、間の取り方についてはよかったと思いますか」

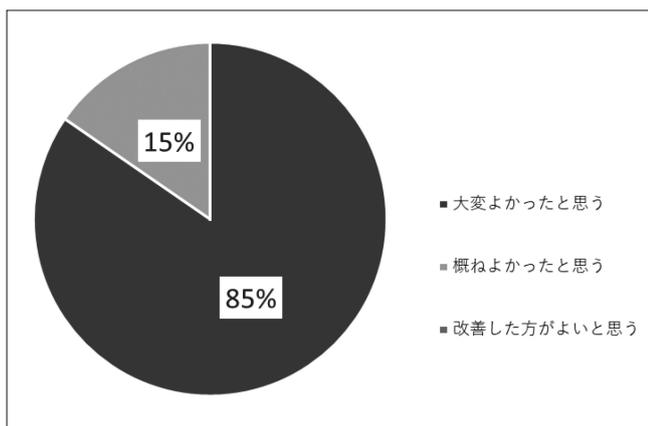


図 15 担任の方への質問「指導用教材は、児童たちにとってわかりやすかったと思いますか」

【考察】

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、近年はオンデマンドによる保健指導の取り組みに関する報告 [7] がみられ、非対面による遠隔や電子媒体を用いた各種保健指導の実施は可能であり、有効であるとの報告や [8 - 10]、口腔機能向上サービスを提供する遠隔型プログラムは、高齢者の口腔機能を向上するために有効であるとの報告もみられる [11]。他にも、上田らが行った健康づくりについての研究によると、健康に関心があり、具体的な方法や情報を必要としている準備ステージの対象者には、通信教材が有効であるとの報告がある [12]。

今回、令和2年度とは異なり、授業の中で教室にて一斉に動画を視聴し、さらにアンケートを行ったことから、集団に対するオンデマンド型歯科保健指導の評価を得ることができた。児童を対象としたアンケート結果より、歯の学習について“とても楽しかった”と答えた割合が76.4%であったことから、歯科保健指導の内容が児童に対して興味や関心を引くものであり、理解できる内容であったことが伺える。しかし、“少しむずかしかった”“とてもむずかしかった”と回答した児童は23.6%であり、各学年では、1～5年生では約10～20%、6年生は46.6%であったことから、学年により難しいと感じる割合に差がみられた。今回実施したオンデマンド型歯科保健指導が一方的な展開になり、児童が受動的に学ぶ授業形態であったことから、ワークシートやクイズを用いることや、担任が児童に対し発問し考えさせるまたはグループワークを取り入れるなど、能動的に取り組めるように工夫することで理解が深まる可能性があると考えられる。他にも、学年が上がるにつれて主題やねらいをより専門性の高いものとして設定していることが要因の一つであると思われた。しかしながら、歯の学習という児童にとっては専門的で難しい内容を、楽しみながら、さらには興味を引き付ける展開で行えるよう対面以上に意識し取り組む必要があると考えられる。この動画が

自分にとってためになると思った児童の割合が97.5%、さらにこの動画を観たことにより、歯を大切にしようと思った児童の割合が99.2%であったことから、歯科保健行動の意識を高めるための効果的な動機付け（モチベーション）に繋がったのではないかと考察できる。

担任を対象としたアンケート結果より、児童の歯科保健指導受講状況について、“全員が興味を示していた”“全員が集中して受講できた”“歯についての健康意識が高まった”と答えた割合が100%であったことから、オンデマンドによる歯科保健指導であっても児童が興味を持ち、集中して取り組めたことが伺える。歯科保健指導内容については、“学生たちの話し方、問の取り方について大変よかったと思う”と回答した担任が全学年で92%であり、“指導用教材は、児童たちにとって大変よかったと思う”と回答した担任が全学年で85%であった。さらに、アンケート内の自由感想欄からは、「クイズがあったり、身近なキャラクターを用いるなど大変興味を持って見ていた」「動画に合ったワークシートがあることで、最後まで集中して取り組むことができていた」や「模型や歯ブラシを使って動かしながらの動画だったので分かりやすかった」などのポジティブな意見が得られた。このような評価が得られたのは、学生は対象者に対面し関わりを持つことはできないものの、対象者の状況を様々なツールを通してリサーチし計画を立て取り組んだことによって、対象者に理解しやすい展開になったのではないかと考えられた。

しかしながら、更に効果的な歯科保健指導を行う際には、歯科保健行動の動機付けができる体験型の指導も必要である [13] との報告や、口腔内の細菌数を評価するツールを活用した歯科保健指導法は、歯科保健行動に良好な変化をもたらす有効な歯科保健指導プログラムである [14] との報告、デンタルフロスの使用を取り入れた歯科保健指導により歯肉炎が抑制されたこと、さらに対象児童の行動変容が起きた [15] との報告もみられる。これらの報告からも効果的な歯科保健指導を

行うためには、対象者自身が実際に体験する取り組みが有効であると考えられている。今回実施したオンデマンド型歯科保健指導においては、新型コロナウイルス感染予防の観点から教室内で実際に歯磨きや様々な体験を行うなど、児童が能動的に取り組む授業展開を実施することは難しい状況であった。そのため、家庭学習にて児童が今回の歯科保健指導で学んだことを継続して取り組めるよう、唾液を用いた実験キットやワークシートなどを各児童へ配布した。しかしながら、その取り組みに関しては実施した後の評価を行っていないため、今後はオンデマンド型歯科保健指導を行った後に児童の行動変容がみられたのか、そしてそれを継続できているのかを評価する必要があると考えられる。これらのことから、マスクを着用した状況で行う歯科保健指導という制限がある中で、オンデマンドであっても対象者に対し、望ましい歯科保健行動に変容できる動機付けを与えられるよう工夫し取り組む必要があると思われた。

今後の課題として、小学校歯科保健指導実習の計画にあたり、対象年齢に合わせたテーマ設定や到達目標をよく検討し、オンデマンドであってもよりわかりやすく伝えるためには、一方向からの内容ではなく対面と同様に児童が能動的に学べる授業を展開していく必要があり、そのためには動機付けを与える指導方法や教材を検討する必要があると考えられた。

【結語】

小学校歯科保健指導の分野において、対面での実施が困難な場合であっても個別のみならず集団に対してもオンデマンドによる実施が可能であり、有用性が示唆された。今後は、オンデマンドによる集団歯科保健指導計画を立案するうえで、児童の興味を引き理解を深めるためには能動的に学べる授業を展開していく必要があり、そのために小学校の養護教諭やクラス担任との連携をより強化していく必要がある。さらに、対象年齢に合わせたテーマ設定や到達目標をよく検討し、オンデマンド型歯科保健指導であっても対面以上にわ

かりやすく伝え、動機付けを与える指導方法や教材を工夫し、対象者の行動変容が認められるような取り組みを検討していきたい。

【参考文献】

1. 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会（厚生労働省）：健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料。2012
2. 上條英之：歯科口腔保健の推進に関する法律の概要と法律に基づくこれからの展開。口腔衛生会誌。2012；62：2-13
3. 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会：歯科衛生学教育コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－2018年度改訂版。2018
4. 武山真奈美，花淵静，三浦悦子，他：小学生を対象としたオンデマンド型歯科保健指導実習に対する臨地実習指導の実践。研究紀要青葉 Seiyō；2021；13（1）：123-130
5. 大嶋隆，他：最新歯科衛生士教本 小児歯科（第1版）。医歯薬出版株式会社，東京，2020
6. 高坂利美，他：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）。医歯薬出版株式会社，東京，2020
7. 米岡裕美，柴崎智美，柴崎由佳，他：保健指導動画作成による小中学校教育体験学習。医学教育。2021；52（3）：209-214
8. 八幡勝也：遠隔保健指導についての法的検討。ITヘルスケア；2010；4（2）：110-118
9. 水島紬，池田利恵：非医療系大学生における歯科保健意識の変化－電子媒体を活用した歯科保健指導の取り組み－。日本口腔保健学雑誌。2021；11（1）：50-57
10. 笹目真千子，田口（袴田）理恵，河原智江，他：30歳代地域住民に対する通信型保健指導による生活習慣改善効果の検討。横浜看護学雑誌。2011；4（1）：26-33
11. 関口晴子，大淵修一，小島成実，他：遠隔型口腔機能向上プログラムの検討。日本老年医学会雑誌。2010；47（3）：226-234

12. 上田由喜子, 窪紗耶香: 健康づくりのための通信教材の有用性に関する研究. 日健教誌; 2010; 18 (1): 14-22
13. 荒井志歩, 合場千佳子, 関口洋子: 思春期女子生徒における口腔保健行動と齲蝕および歯周病リスク検査の調査- 歯科保健指導前後のブラッシング行動の比較-. 日本口腔保健学雑誌. 2019; 9 (1): 85-92
14. 小野瑞穂, 池田利恵: 非医療系大学の学生に対する効果的な歯科保健教育の検討- 口腔内の細菌数を評価する細菌カウンタを活用して-. 日本口腔保健学雑誌. 2020; 10 (1): 49-57
15. 葎原明弘, 深井浩一, 両角祐子, 他: 小学校におけるデンタルフロスを用いた保健指導による歯肉炎の改善. 口腔衛生会誌. 2001; 51: 822-827